

新年を迎ふ

新年の活動は地球に...

南米洲の機会

特命全權大使 石井 謙吉



南米洲の機会...

當分經濟力を驅使 太平洋戦争は回避

野黨平和公約反古にせん

此(等)の(調)...

自戒詠

椎木 文也

自戒詠...

年頭所感

江湖 要一

年頭所感...

飛行機

飛行機...

イギリス極東軍

イギリス極東軍...

その後の労働組合

その後の労働組合...

石油の

石油の...

新體制に即し解消

新體制に即し解消...

産業報國運動に邁進

産業報國運動に邁進...

自戒詠

自戒詠...



賀正

在伯大日本  
帝國大使館

石射猪太郎  
工藤忠夫  
勝山邦光  
早尾季鷹  
佐藤日史  
野崎正勝  
河面徹郎  
鈴木與市  
武官室  
江湖要一

賀正

在サンパウロ  
大日本帝國  
總領事館

成瀬 齋藤芳造  
野替外繁  
會田慶佐  
相澤榮久  
伊東光男  
久本定二  
重松萬太郎  
江澤榮一  
杉山英雄

賀正

日伯農事協會  
カシヤノ農事試験場  
Caixa Postal, 1167  
Sào Paulo

服部武雄  
野元又雄  
高橋善導  
勝浦茂雄  
清原正二  
川上榮光  
井上新一  
水本 薫

賀正

在サンタス  
大日本帝國  
領事館

勸業部  
青木林藏  
北村豊治  
佐々木 淳  
北村政吉

賀正

在リオ・デ・ジヤネイロ  
大日本帝國領事館

早尾季鷹  
野崎正勝  
廣瀬俊夫



高速度編物研究所

定期講習所サンパウロ女學院内  
聖市サン・ジョアキン街二一六

謹賀新年

滋野種鶏場

セントラル線モチ・グス・クルーゼス群  
郵 函 五 番

謹賀新年

謹賀新年



清酒 櫻金水醸造元

サンパウロ・レイルウェイ線  
リベロンビルス群

日伯産業組合中央會 顧問辯護士  
コチア産業組合  
Dr. Cassio Kenro Shimamoto  
Dr. W. C. Ferraz de Almeida  
Largo Tel. 2-5875 - S. Paulo 4-299

謹賀新年

武市洋裁學院

聖市エスピリタダ街一四三  
電話 七一一四三三

謹賀新年

SAKURO HASE  
IMPORTADOR  
RUA IRMÃ SIMPLICIANA, 102  
CAIXA POSTAL, 2-A - TEL. 2-1075  
SÃO PAULO

實販手一並約特

目種業營

精工合時計、山内式製麵器  
ピクラー、テイテック会社レコード  
並 番 音 機、賽 命 酒  
錠劑わかもと、横綱印海苔粉  
オリンス印刷補糸、自力健康器  
萬古式謄寫版、諸星印刷インキ

食料品、小間物、金物、陶器  
文房具、玩具、野茶種子  
自轉車、電気配線器具  
書籍、雜誌、賣藥  
運動具、レコード、音響機各種

羽瀨商店

羽瀨作良

賀

カーザ東山

サントス事務所  
サンパウロ事務所  
リオ・デ・ジヤネイロ事務所  
リンズ事務所  
マリ、ア・事務所  
プ・プルデンテ事務所  
プロミツソン精選所  
アルヴァレス 精選所  
マツシャード 精選所  
グワラントン精選所

東山銀行

サントス本店  
サンパウロ支店  
リンズ支店  
マリ、ア支店  
プ・プルデンテ支店

東山農場

カンピーナス農場  
モニヤンガバ農場

正

東山工業部

酒造工場  
絹織工場  
絹織工場  
肥料工場  
鐵工場

賀春

大阪商船株式會社

サントス代理店

ブラジル大阪商船會社  
Soc. de Nav. Osaka do Brasil, Ltda.  
Rua Cidade de Toledo, 31  
Tel. 3178 - Caixa Postal, 148 - Santos

聖市副代理店

ブラジル大阪商船會社  
Soc. de Nav. Osaka do Brasil, Ltda.  
Rua Alvaros Pontendo, 200  
Tels. 2-4485 e 3-8750 - Cx. Postal, 2827  
Sào Paulo

リオ代理店

Wilson Sons & Cia. Ltda.  
Av. Rio Branco, 37 - Tel. 23-3888  
Caixa Postal, 751 - Rio de Janeiro



O.S.K. Line







年 新 賀 謹

■ヤジーベルセぬら變もつい■



■ヤニーチカスカ■

Sankuma Yamamoto Industrial de Peixes Seccos, Salgados e Conservas

謹賀新年 海産物食品製造工場

山本三熊

サントス市アレモア・アベニダ...

謹賀新年 吉開洋服店

正賀 宮城新行

謹賀新年 小林源五郎

謹賀新年 パール齋藤

正賀 佐々木製菓所

謹賀新年 パラマンサ農場

正賀 與儀清一

賀正 南聖義塾 坂口商店

正賀 尾崎良太郎

謹賀新年 商工組合 オウリンニヨス

謹賀新年 西元薬局

EMPRESA COLONIZADORA Regolini, Medeiros, Nomura & Cia. Land advertisement with details on plots and agents.

謹賀新年 土地 所は昔に名高い...

Cia. de Terras Norte do Paraná Real estate advertisement with large text and address in São Paulo.

謹賀新年 優良苗木各種 州政府公認苗木生産場

Fabrica 'Progresso Paulista' advertisement for agricultural machinery with an image of a machine.



# 第二世教育に示唆深い判決

## 武士道の母は強し 米國紳士を望んだ父親の幻滅

子供にアメリカ教育を施さず、二人は正統な武士道精神を継承し、米國紳士を望んだ父親の幻滅が、この判決に示唆を與へた。米國紳士の教育を受け、米國紳士になろうとする子供に、父親は強し、米國紳士を望んだ父親の幻滅が、この判決に示唆を與へた。

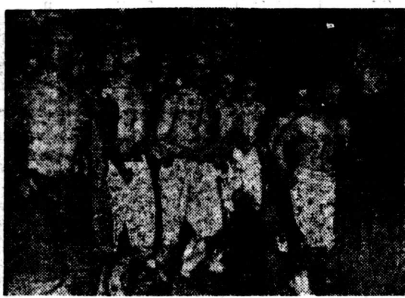
## これは氣味が悪い 壽命が分る

### 九州醫大で成功

精神と氣味の動向の研究に、九州醫大で成功。これは氣味が悪い、壽命が分る。九州醫大で成功。精神と氣味の動向の研究に、九州醫大で成功。

## 走り過ぎて、世界一周

### 四年間、毎朝裸で汗の役人達



組練の：周一界世

世界一周、走り過ぎて、世界一周。四年間、毎朝裸で汗の役人達。世界一周、走り過ぎて、世界一周。

## 蝙蝠に代つて金鵒 煙草の洋名駆逐



蝙蝠に代つて金鵒、煙草の洋名駆逐。蝙蝠に代つて金鵒、煙草の洋名駆逐。蝙蝠に代つて金鵒、煙草の洋名駆逐。

## 山葉双たつ乗に車戦

### 鳴悲て塔砲へかつが腹鼓太



山葉双たつ乗に車戦、鳴悲て塔砲へかつが腹鼓太。山葉双たつ乗に車戦、鳴悲て塔砲へかつが腹鼓太。

## まただるる、國辱娘

### ドル買留學生に無警戒接近

まただるる、國辱娘。ドル買留學生に無警戒接近。まただるる、國辱娘。ドル買留學生に無警戒接近。

## 御土版のある少女

御土版のある少女。尾ツボのある少女。尾ツボのある少女。

尾ツボのある少女、御土版のある少女。尾ツボのある少女、御土版のある少女。尾ツボのある少女、御土版のある少女。

謹賀新年  
パウル裁縫女子學園  
メウルクンゼ・デ・ノベンボロ街九四

謹賀新年  
林 若 松  
ボンベイ市

謹賀新年  
永尾 重信  
ボンベイ市イグワツバ街二二

謹賀新年  
吉山市五郎  
ボンベイ市

謹賀新年  
西村 鐵工所  
ボンベイ市イグワツバ街五九

謹賀新年  
高本 理髮店  
ボンベイ市

謹賀新年  
高村 信親  
ボンベイ市イグワツバ街二〇

謹賀新年  
CASA NISHI MORRO ACUDO  
西傳助商店  
内外食料品・各種雜貨・化粧品一切  
パウリスダ街セーロアグワド

謹賀新年  
片山 勝一郎  
カンベリナス市  
電話 二四五八番

謹賀新年  
西畑兄弟商會  
農産物・洋花仲買  
ボンベイ市イグワツバ街四四

謹賀新年  
本山兄弟吳服店  
ボンベイ市本通り四四

謹賀新年  
井手 卯八  
ボンベイ市

謹賀新年  
三野 尻 卓 高  
ボンベイ市イグワツバ街七

謹賀新年  
SEGURO DE VIDA  
生命保險代理人  
三野 尻 卓 高  
ボンベイ市イグワツバ街七

謹賀新年  
宮崎商會  
合資會社  
パセリナ街ボンベイ市  
電話 七一九

謹賀新年  
PENSÃO NIPPON  
HAYASHIDA  
R. Bernardino de Campos, 407  
CAMPINAS  
日本旅館  
熊本 敏  
林田 末 敏  
カンベリナス市  
カンベリナス街四〇七

謹賀新年  
福田・岡田商會  
營業 自動車並に附屬品販賣  
種目 精米、珈琲精撰部  
サムハラ棉會社仲買  
パセリナ街ボンベイ市  
電話 四一九



賀正

裁縫女學校  
校長 藤本 幸子  
教頭 長野 千代子  
同 藤本 梅子  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
莊司 忠之  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
尾畑 金作  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
巴拉グワスー  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
萩堂 盛喜  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
永松 健太  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
牧野 有作  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
田實商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
松本國太郎  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
渡邊義和  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
竹井 貢  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
萩堂 盛喜  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
永松 健太  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
牧野 有作  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
比嘉 松信  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
宮崎 洋服店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
プ・プルデンテ  
商工會  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
川崎 茂  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
川崎 茂  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
原 繁茂  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
原 繁茂  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
山田 俊喜  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
小松 寫真館  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
宇都宮 惠  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
矢田 橋次郎  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
伊藤 波四郎  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
磯村 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
富田 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

賀正  
山田 俊喜  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
岡本 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
初村 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
齋藤 市太郎  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
高田市次郎  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
佐藤 正志  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
佐藤 正志  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
マルチノポリス  
商工組合

謹賀新年  
岡本 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
初村 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
齋藤 市太郎  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
高田市次郎  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
佐藤 正志  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
佐藤 正志  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
巴拉グワスー  
商工組合

謹賀新年  
池本 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
吉野 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
竹川 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
丸石 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
佐藤 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市

謹賀新年  
平野 商店  
ソノカバナ線  
〒四一五市







正 賀  
梅田友治郎  
電話二二八〇

正 賀  
平田崎太郎  
電話二二八〇

正 賀  
村井旅館  
ツエラクルス町(日本人郵便局隣)

正 賀  
ニツボン洋服店  
羽 藤 数 志  
パ線ベラクルス町

BAR KAWAMURA  
謹賀新年  
内外食料品  
パール河村  
河村市本郷  
パ線ベラクルス町シコ・デ  
パ線ベラクルス町四四七

謹賀新年  
本年もよろしくお願ひ致します  
ニツト寫眞館  
新 田 白 陽  
パ線ベラクルス町  
郵函A-1電話六〇

正 賀  
大西兄弟寫眞館  
ボンベイ市パウール街四九

正 賀  
ボンベイ産業組合  
ボンベイ市中央街

正 賀  
セントラル果物店  
新鮮な果物豊富な卸並小賣  
佐 藤 彌 一  
ボンベイ市中央街

謹賀新年  
パール・ソルベツテリア  
木 原 末 喜  
ボンベイ市パウール街六九  
郵 函 二 十 四

正 賀  
内外雜貨  
屋宜兄弟商會  
ガリア市

謹賀新年  
農産物棉花仲買並に運搬業  
河野幸喜  
本店ボンベイ市ノボ・クラビンニヨ街  
支店ルツセリリアア町

謹賀新年  
公認 黒木裁縫女學校  
一、速成科 三ヶ月  
一、普通科 六ヶ月  
一、隨意科 八ヶ月以上  
一、寄宿舎の設備あり  
ボンベイ市

謹賀新年  
北村旅館  
北 村 利 一  
ボンベイ市セドラー街三二  
電話三一五

謹賀新年  
各自の天分を生かす新しい教授法  
技術の練習と娯楽の演習につとむ  
男女服小供服一切  
カサメント用一式  
美容品の進歩  
寄附の便あり  
洋裁研究所  
公認教師 菅原 瑞子  
外 生 徒 一 同  
ボンベイ市パウール街二二  
フオオミラング街二二

謹賀新年  
和洋菓子製造卸小賣  
茂木菓子工場  
渡 邊 龜 壽  
ボンベイ市パウール街  
(アルメイダ銀行隣)

謹賀新年  
井本寫眞館  
撮影、焼付、引伸  
井 本 卯 之 助  
ガリア市

謹賀新年  
内外雜貨並に農産物  
委託販賣棉花仲買人  
吉 永 久 彦  
ガリア市  
郵函二一電話二四

謹賀新年  
井本寫眞館  
井 本 卯 之 助  
ガリア市

謹賀新年  
パール・製菓業  
葛原恒夫  
ガリア市アベニダ  
パウリスタ 郵函六八

謹賀新年  
塩崎英一  
ガリア市 郵函八〇

謹賀新年  
内外雜貨  
佐倉商店  
内 外 雜 貨  
日 本 品 各 種  
電話二〇一郵函六四

謹賀新年  
パール・製菓業  
石田ブリキ店  
中央線スザノ驛  
モチ産組合庫内  
モチダグス・クルー  
ゼス市 郵函五

賀正  
木曜會  
中央線スザノ驛  
ゼネラル・フランシスコ  
グリセリオ街八六

正 賀  
製糖工場  
上田 穎  
中央線スザノ町

正 賀  
向井捷次郎  
モチダグス・クルーゼス市

正 賀  
伊藤榮太郎  
モチダグス・クルー街

謹賀新年  
日伯青年  
産業文化協會  
(汎セントラル總青年聯盟)  
Sec. Cultural e Agronomica de Mocós  
Nipo-Brasileira do Norte de São Paulo  
Rua Provincial: R. Dr. Ledado Wertheimer, 21  
Cidade Postal, S. - Telefone, 415  
KOGYU BAN 415/25

謹賀新年  
果樹苗 本多果樹園  
セントラル線モチダグス・クルーゼス市  
郵 函 三 四

謹賀新年  
パール製菓製造  
大竹商店  
中央線スザノ驛ゼネラル・フ  
ンシスコ・グリセリオ街二七

謹賀新年  
輕貨並に食料品  
井浦共營商會  
中央線スザノ驛  
ゼネラル・フランシスコ  
グリセリオ街八六

謹賀新年  
中央線聯合  
日本人會

謹賀新年  
パール・カフェ・エスタソン  
前田商店  
中央線フエラス・  
ヴァスココンセロス驛前

謹賀新年  
河本長太郎  
中央線  
モチダグス・クルーゼス市  
電話二二三

謹賀新年  
田中寫眞館  
田中與四郎  
セントラル線スザノ驛前

謹賀新年  
パール・製菓業  
中村國太郎  
ジョゼ・ボンファシオ街一四

謹賀新年  
至誠奉仕 山田藥局  
中央線スザノ驛  
電話二七二

謹賀新年  
モチダグス・クルーゼス  
商工會  
(A.B.C. 題)

各種製菓 赤池製菓所  
インデペンデンス街一六〇

オリンピック食堂 土肥肆一  
リカルド・ビレラ街一七

代シガミシン 福田洋服店  
モレイラングロリア街二二四

撮影出張 早坂寫眞館  
コロネル・ソザランコ街七四

御休ミ所 久米食堂  
コロネル・ソザランコ街四四八

チンツラリア 益田洗染店  
コロネル・ソザランコ街五〇八  
電話三六〇

理髮店 長野重光  
ブラス・クーバス街二二

内外雜貨 西山商店  
パオン・ヂ・ヂセグワ街三四三  
電話二一四

パール・パンソソ 中村國太郎  
ジョゼ・ボンファシオ街一四

チンツラリア 小野寺 光  
リカルド・ベレラ街四八四

ホ テ ル 尾崎信義  
電話三一八

チンツラリア 酒井養鶏場  
チンツラリア 佐田製菓所  
インデペンデンス街一七四



















Lavanderia e Engomaderia  
**GONZAGA T. MORIMOTO**

謹賀新年

森本嘉章

サントス市セナドール  
フニジョ街二九四  
電話二二三五四

謹賀新年

伊波興助

サントス市バラナ街三二〇  
電話七二八八

謹賀新年

バナナ生産者組合

サントス市アラウツサ・ジョゼ!  
ポニファシヨ街二二八  
電話六八三七 郵函四二九

謹賀新年

渡邊義敬

富士洗濯所

サントス市ブラサ・クレーパス街三三三  
電話二五八〇

謹賀新年

大下和洋製菓所

御菓 菓子

御親戚並に御客用御菓子調達  
御祝儀に御取掛致します

サントス市コンスタウソン街四二

謹賀新年

御旅館 成功館

サントス市セナドール・フニジョ街三三三  
電話五二二五五

謹賀新年

青木商會

木炭卸商

サントス市エスピリト・サント街六  
電話六六三六

Padaria Confeitaria e Bazar  
**SOL NASCENTE**  
Tel. 6200  
Rua Carvalho de Mendonça 42B  
SANTOS

謹賀新年

野中正

内外雜貨並に  
學用品其他色々

サントス市カルバリーヨ  
メンドンサ街四二八  
電話六二〇〇八

T. Yoshida & Irmão  
Mercado Municipal. No. 1  
SANTOS

謹賀新年

吉田忠次  
吉田忠彦  
吉田正典

サントス市メルカド・パンカチ  
住宅「ウルグワイ」街五三〇

謹賀新年

吉田忠男

製菓卸商

サントス市バロン・デ・バラナ  
ピアカーバ街一五〇

謹賀新年

富士旅館

大阪商船會社指定  
乗合切符取次所

サントス市アベニダ・  
カンボス・サレス街一六一

Limpador Universal  
O Melhor e o Mais Perfeito  
SANTOS

謹賀新年

遠木繁正

サントス市ブラサ・クレーパス街三三三  
電話七五九七

謹賀新年

東洋寫真館

千田昌雄

サントス市アラウツサ・ジョゼ!  
ポニファシヨ街二七

謹賀新年

大谷八右衛門

魚問屋

サントス市メルカド・パンカチ

謹賀新年

魚問屋

大谷八右衛門

サントス市メルカド・パンカチ

謹賀新年

魚問屋

大谷八右衛門

サントス市メルカド・パンカチ

謹賀新年

ホテル三笠

大阪商船切符取次所

サントス市ブラサ・クレーパス街二六四  
電話二九五八

謹賀新年

魚問屋 鮫島

漁業場

サントス市サン・セバスチアオン  
ソンプリニョ

**HOTEL USHIO**  
Rua Braz Cubas, 239  
Tel. 5181 - C. Postal, 828  
SANTOS

謹賀新年

潮ホテル

前田吉太郎

サントス市ブラサ・クレーパス街二三九  
郵函三二二八 電話五一八二

正賀  
サントス市ビツタ  
ン・クルチ街九五  
ホテル 昭和  
電話七四八六

正賀  
サンツリア・サート  
佐藤啓一

サントス市ルツカス・フォルト  
ナフト街四一 電話七九五二

謹賀新年

日本人自動車組合

御遊覧には、是非安くて安全な  
組合の自動車を御利用下さい

サントス市アラウツサ・  
ジョゼ!  
ポニファシヨ街  
電話三七七六

謹賀新年

サントス日本人會

丸共 味噌 醸造所

サントス市バラナ街二二九  
電話四二五三

謹賀新年

中村正治

取次販賣  
鮮魚商

サントス市メルカド・  
パンカチ

謹賀新年

蒲地鶴吉

漁業場

サントス市サン・セバスチアオン  
ソンプリニョ

**SANEHICO MIKAI**  
FORNECEDOR DE PEIXE  
Fornece Peixe Fresco, Secco e Salgado  
Aceita - se Qualquer Fornecimento  
Para o Interior do Estado  
Deposito: Rua Comendador Martins, 149  
Res.: Avenida Washington Luiz No. 224  
SANTOS

謹賀新年

三井實彦

岡本貞一  
仙台一男

外交易員  
サントス市ワシントン・ストリート街二三二  
電話二五二四九

謹賀新年

伊波興徳

サントス市ベド・メリコ街六四  
電話五一二七

謹賀新年

坂井兄弟商會

鮮魚問屋

漁業場 坂井保芳  
坂井芳信

サントス市ボタ・ダ・グライア  
(サントス市漁業組合所在地)  
サントス市メルカド・パンカチ

謹賀新年

新田繁徳

私撰新年中は特別の御引立を蒙り有難く御禮申上  
す。何卒本年も相替儀の御交遊賜り度く御願申  
上げます。就ては臨時下輸入困難の爲めレコードは  
在庫品のみにて一時中止致します。  
一月一日  
琉球レコード直輸入商  
豆蔵、コンキヤ製造販賣

サントス市アマゾーナス街九二

**N. DOI & C<sup>IA</sup>.**  
Commissões, Consigações e Conta Propria  
Cereales Por Atacado  
Rua Amador Bueno, 132-134 - Santos. C. Postal, 311 - Tel. 6811

謹賀新年

農産物委託販賣

本店 サントス市アマドール・フニ  
ジョ街二二二 電話六八八一  
支店 ビニョグ・ア・カサ 電話六八一  
支店 ジュニョグ・ア・カサ 電話六八一  
支店 レイダグ・ア・カサ 電話六八一  
支店 レイダグ・ア・カサ 電話六八一

謹賀新年

土井商會

農産物委託販賣

サントス市メルカド・パンカチ







謹賀新年

親切・便利  
御出達の折は何卒

ミッソワ旅館へ

簡易食堂 各種手打うどん・そば  
和洋一品御料理  
聖市ミッソワ・ゲート街三五  
電話二二二九一四番

謹賀新年

大阪商船切符取次所

ホテル太陽

聖市コウト・デ・マガリヤンヌ街四五番  
(ルネッサンスより一〇〇米)  
ツルカバナ通り三〇〇米)  
電話 四・二四八四

謹賀新年

株式会社互立製作所  
伯國駐在員

長谷川俊雄

聖市ボアビスタ街一六四階四〇三號室)  
電話二二二四五番  
郵函一三二二番

謹賀新年

岡山齒科

聖市コンヂ・ド・ビニール街一三三  
電話二二二〇三番

謹賀新年

農産物仲買  
委託販賣

西岡廣一

聖市青物市場バラウカ三〇

謹賀新年

農産物仲買  
委託販賣

新垣商店

聖市青物市場バラウカ三七  
電話二二〇〇八七番

謹賀新年

大阪商船切符取次所

亞細亞旅館

三重縣人 藤井清二  
千葉縣人 石毛寅之助

聖市グロリア街二九八番  
電話三・六三八二番

謹賀新年

ホテル東洋

浪花旅館

伊藤桑三郎

御旅館中國館

藤田辰雄

九州旅館

富士屋旅館

熊本旅館

旭旅館

合組

聖市

◎歸國手続迅速に取扱ひ致します  
◎御歸國者を一着多く且つ迅速に取扱つて居る事と  
經濟的であるといふ定評を持つ聯合組合旅館の何  
れかをお選び下さい

正賀

蔬菜物仲買委託販賣業

渡邊販賣所

同渡邊  
聖市中央青物市場内バラウカ四十八番  
住所 聖市カルメリア街二十四番  
郵函一七九番 電話三・五四一七番

サン・パウロ

日本商業會議所

ブラッサ・ジヨンメンデス(七階)

謹賀新年

日伯産業組合中央會

Cooperativa Central Nippo-Brasileira  
PRAÇA CARLOS GOMES, 186  
Caixa 2986 - Tel. 2-0517 e 3-4655  
SÃO PAULO

謹賀新年

インペリアル

平井寫眞館

平井 猶 榮

平井 定

謹賀新年

家具製造販賣

カーザアトジ

跡路兄弟商會

聖市ルア・ダ・コンソラソン二二二四  
アヴェニダ・ゼネラル・  
オリビオ・ダ・シルバイラ八七

謹賀新年

Hachiya, Irmãos & Cia.

Importações e Exportações

主要ストック品目

陶磁器、硝子器、玩具、貝類、フリ  
ヂストーン・タイヤ、レオン號自轉車  
オリエンタル電球、パイロット萬年  
筆、針金、セルロイド板、透明紙、  
工作機械、電機モーター、石油モ  
ーター、其他雜貨類一般

直輸入卸商

主要インポート部品目

毛糸、人絹糸、針金、淡鐵板、平鐵  
板、水道機手、機械類一般、農薬品  
工業用薬品、粉糖類、電球、セ  
ルロイド板、透用紙、其他日本工  
業品一般

久留米市  
神戶市

株式会社  
伯國總代理店  
岩井商店  
伯國總代理店

蜂谷兄弟商會

聖市店 ブリガデイロ・ピアス街六八八番  
玩具工場 パロン・デ・ジャグアラ街八三五番  
リオ店 テオフィロ・オトニ街拾八番  
貝類工場 パロン・デ・メスキータ街七八一番  
名古屋店 東區白壁町四丁目拾三、四番地

謹賀新年

昭和十六年元旦

プルデンシア

貯蓄銀行

日本人部一同  
地方取次人一同



Prudencia Capitalização

Cia. Nacional Para Favorecer a Economia S/A

Capital realizado rs. 2.250.000\$000

Rua Senador Paulo Egydio, 15 - Caixa Postal, 1843

SÃO PAULO









謹賀新年  
 兒島寫真館  
 兒島末男  
 ラルゴ・ド・テゾーロ街一ノ  
 三階 電話二一七五八七

謹賀新年  
 急ぎ旅館  
 兼手帳、商業登録、其の他一般手帳  
 聖市オンゼ・デ・ノスト街二四番  
 電話 三二五七〇番

正賀  
 鎌田 豊  
 聖市タバチンゲラ街七七番  
 電話 二一七六四八番

正賀  
 サロン 大阪  
 聖市イルマン・シニア街三六

正賀  
 専門 風呂並に釜其他  
 駒場ブリキ店  
 聖市コンデ・デ・サルゼイグス街八一

正賀  
 タナアミ理髮館  
 聖市コンセレイロ・フルタド街五十一

謹賀新年  
 家具製造販賣  
 カーザ・東洋  
 坂本喜三  
 池田作太郎  
 聖市ル・ア・ダ・ス・バルメイス街六六

謹賀新年  
 内外雜貨、飲食料品  
 池永兄弟商店  
 聖市コンデ・デ・サルゼイグス街二四

謹賀新年  
 義村 取吉  
 兼果實仲買  
 兼委託販賣  
 聖市聖安市場内ブラウカ街廿番  
 電話 二一四九二番

謹賀新年  
 Y. Kinjô  
 Cirurg. Dentista  
 齒科醫  
 金城 山戸  
 Rua Christovão Colombo, 8 - 2. andar  
 Telephone: 2-8033 - São Paulo

謹賀新年  
 淺倉齒科醫院  
 聖市グロリア街三五二番  
 電話 二一六八四八番

謹賀新年  
 Dr. R. P. Silva  
 Cirurgião Dentista  
 大久保齒科  
 聖市イルマン・シニア街  
 シーナ街一五〇番(二階)

謹賀新年  
 Dra. J. Calasans  
 Cirurgião Dentista  
 荻原齒科  
 聖市セイレス街一二六番  
 (中央メルカド前)

謹賀新年  
 日伯齒科醫院  
 院長 村上眞市郎  
 聖市アベニダ・ラ・ラゼレ・ベスタダ街  
 十二番(三階) 電話 三〇五、三〇六、  
 三〇七、三〇八 (ラルゴ・ダ・イグ)

謹賀新年  
 津波古裁縫所  
 聖市タバチンゲラ街二九

謹賀新年  
 富川 富與  
 尙武館  
 道場 聖市ミダラ・デ・ササ街四〇  
 自宅 ビネイロス街カリニニ街九

謹賀新年  
 東洋書店  
 聖市コンセレイロ・フルタド街二六  
 郵箱 三三八 電話 三二四七五三

謹賀新年  
 紅茶綠茶  
 シヤリベイラ  
 レヂストロ  
 岡本茶園  
 販賣所 聖市ガルボン・ソフ街三五二  
 電話 七五二二番  
 喫茶部 聖市キンゼ・デ・パソ街二二番  
 電話 三五九四番  
 支店 サントス・ア・プラサ・クイバス街三番  
 電話 五四八〇番

謹賀新年  
 醬油醸造所  
 大野鶴龜  
 電氣土木技師  
 大野 繁  
 聖市アベニダ・ラ・ラゼレ街二二〇

謹賀新年  
 鶴  
 大野鶴龜

謹賀新年  
 昭和十六年元旦  
 在伯日本人同仁會  
 日本病院  
 職員従業員一同

謹賀新年  
 Akaki & Cia.  
 農産物賣買  
 委託販賣  
 赤木商會  
 電話 二一九〇八一番  
 郵箱 一八九七番

謹賀新年  
 CASA ASSAHI LTDA.  
 Rua Hapura de Miranda 58  
 Tel. 3-2584 S. Paulo  
 日用雜貨、養鶏飼料、肥料  
 農用藥劑、農産物委託販賣  
 カーザ朝日  
 聖市ル・ア・ダ・ス・バルメイス街五八番  
 電話 三二二五八四番

謹賀新年  
 同胞各位の御健闘を祈ります  
 各種製版の御用命に應ず  
 ▼手彫ゴム版は特別入念に調製いたします  
 カーザ・マツダ  
 松田徳太郎  
 松田竹次郎  
 電話 二七四三三番  
 在伯同胞大寫眞帖  
 發行所 太古川陽  
 電話 二七四三一番

謹賀新年  
 DROGAMERICA LTDA.  
 Matriz: Deposito de Drogas Rua Lopes Chaves, 519 S. Paulo  
 VENDAS POR ATACADO  
 サンパウロ藥店  
 主任 上野 月實  
 日本藥店  
 主任 肥田 善治  
 コラソン・ゼズス藥店  
 主任 龜岡 政之進  
 アメリカ藥店  
 主任 長谷川 四郎

謹賀新年  
 QUAL CALOR... QUAL NADA!  
 Basta um chopp da ANTARCTICA!  
  
 年 新 賀 謹



正賀  
遊谷 駒平  
農産物・棉花仲買  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便六二番 電話七八番

正賀  
弘光 正壽  
運搬業  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一三番 電話一七番

謹賀新年  
湯淺 康善  
ソコバナ線バグアス市  
文化 植民地

謹賀新年  
ホテル 日伯  
館主 大政 幸一郎  
ソコバナ線バグアス市  
電話七一 郵便一七

謹賀新年  
井上 良太郎  
農産物  
棉花仲買  
ソコバナ線バグアス市  
郵便一三八番 電話一七番

謹賀新年  
大西商會支店  
内外雜貨  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便五三番

謹賀新年  
瀬戸口 善作  
内外雜貨  
食料品  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便二二番

謹賀新年  
菊地 全  
棉花仲買  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一四八番 電話四〇

謹賀新年  
山崎 俊男  
パール・バグリア・エステレイラ  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一三三番

謹賀新年  
大西 清志  
内外雜貨・食料品・棉花仲買  
ソコバナ線バグアス市  
郵便八十九番 電話六十六番

謹賀新年  
青木 商店  
農産物・反物・小間物  
化粧品一式  
ソコバナ線バグアス市  
郵便一〇七番

正賀  
長野 商店  
内外雜貨・食料品  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一三七番 電話九四番

謹賀新年  
稻毛 鐵工場  
製鐵 鍛冶 木工 建築  
農具 器具 工業 材料  
事務所 部部部  
ソコバナ線バグアス市  
電話七一 郵便一七番

謹賀新年  
稲毛 熊次郎  
製鐵 鍛冶 木工 建築  
農具 器具 工業 材料  
事務所 部部部  
ソコバナ線バグアス市  
電話七一 郵便一七番

正賀  
アニウマス 新生青年會  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一六〇番

謹賀新年  
森 光雄  
パール・ソルベリヤ  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一六〇番

謹賀新年  
荒木 佐吉  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便二六番

謹賀新年  
塚 與會吉  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一〇番

謹賀新年  
古賀 荒太郎  
農産物・棉花仲買  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一六番

謹賀新年  
長谷川 商店  
内外雜貨  
棉花仲買  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一五番

謹賀新年  
長谷川 商店  
内外雜貨  
棉花仲買  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一五番

謹賀新年  
福田 良三郎  
製麵業  
バストス市街地  
郵便一九一

正賀  
森 隆次  
パール・ブリヤール  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一六〇番

謹賀新年  
植木 西二  
カーザ植木  
バストス市街地  
郵便三一六

謹賀新年  
古澤 高正  
味噌・醤油醸造元  
バストス市街地  
郵便二八一

謹賀新年  
吉川 共營商會  
販賣部  
バストス市街地  
郵便二〇二番

正賀  
下津 一郎  
バストス市街地

正賀  
嵯峨 三男  
東洋堂製菓所  
バストス市街地

謹賀新年  
Dr. DIMAS S. ROCHA  
齒科醫院  
迅速……無痛治療  
最新式療法……保證付  
治療 安價……支拂法容易  
組合員に對しては二割引で治療  
義齒裝填は専門家擔當  
Caixa Postal. 4-6-9 BASTOS

謹賀新年  
佐野 純一  
バストス市街地  
郵便四七

謹賀新年  
岡本 一雄  
ソコバナ線バグアス市街地  
郵便四七

謹賀新年  
石橋 農具研究所  
外 石橋 三長 兼 兒  
バストス市街地

謹賀新年  
西 靜一  
アンセルモ棉花工場  
專屬仲買人  
バストス市街地  
郵便四一三

MACHINA ANSELMO MAGNANI  
謹賀新年  
西 靜一  
アンセルモ棉花工場  
專屬仲買人  
バストス市街地  
郵便四一三

Transporte em Geral - Optimo Carro  
謹賀新年  
高山 勇  
タクシイ スミレ部  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一三三番

Fabrica de Guaraná Japonez  
謹賀新年  
立澤 飲料水  
製造工場  
一手販賣店  
ソコバナ線サント・アナスタシオ市  
郵便一四六番







謹賀新年

合組工商ヤニピラ

ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
(イニハ聯)  
 雜貨 商 猪熊 政一  
 同 岩原 慎一郎  
 製靴業 井上 桂造  
 精米所及パール 濱井 京七  
 雜貨 商 西久保 喜二  
 同 道法 敏正  
 織工 所 田邊 幸二  
 農産仲買 商 田中 末彦  
 指物 師 高辻 力太郎  
 木 根 木 利七  
 マキニスタ 中川 一人  
 貸自動車業 及 中村 藤吉  
 寫真 館 矢井 正夫  
 同 藤坂 源治  
 同 藤渡 森太郎  
 ホテル 小松 永文  
 パール、ビヤール 秋本 久一

正賀  
 伊佐川 ぶく  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

正賀  
 慶世村  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

正賀  
 伊津野末雄  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

正賀  
 鈴木季造  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

正賀  
 権藤商店  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

正賀  
 勝田正通  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

正賀  
 内外雜貨  
 高見爽 敬  
 第二アリアンサ市街地

正賀  
 内外藥品  
 鎌倉藥局  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

Escola de Corte e Costura  
 DE  
 MITUKO EGUCHI  
 Guararapes N. O. B.  
 州政府公認  
 謹賀新年  
 江口洋裁女學校  
 代理店 江口 忠治  
 電話 二二三番  
 郵便 五九番  
 日本郵便局前

謹賀新年  
 ホテル 喜樂  
 井田 甚吉  
 郵便 二一五番

謹賀新年  
 中村商店  
 中村 長次郎  
 郵便 八五番

謹賀新年  
 農産物仲買  
 精撰工場 瀬ノ上商會  
 同 本店  
 支店  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年  
 瀬ノ上保生  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年  
 志水宇平治  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年

FARMACIA TOKYO  
 M. SHIMATAI & Cia. Ltda.  
 内外藥品  
 東京藥局  
 烏袋盛英  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 九三番

謹賀新年

内外雜貨商  
 大多賀商店  
 大多賀博一  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年  
 和周郎  
 重治郎  
 次夫  
 夫治郎  
 代理人  
 カイザ東山  
 日伯棉花  
 珈琲精撰工場  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年

謹賀新年  
 ありあんさ  
 農業者産業組合  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年

謹賀新年

CASA NIPPAK LTDA.  
 BILAC  
 Caixa, 48 - Tel. 48 Est. BIRIGUI N. O. B.  
 内外雜貨店  
 有限 カイザ日伯  
 責任  
 ビリヂイ聯ラビニヤ聯  
 電話 四八番  
 郵便 四八番

正賀

山根保夫  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 四八番

謹賀新年  
 大峽 伯  
 農商部  
 農場部  
 ミランドボリス聯第一アリアンサ  
 郵便 二一五番

謹賀新年

謹賀新年  
 文化植民地  
 コロニア・ダイジャウ  
 大上所有地  
 大上事務所  
 大上高秀  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年

謹賀新年

謹賀新年  
 シンガリーミン會社  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年

謹賀新年  
 吉井 彦一  
 伊藤 達馬  
 小野 原七  
 馬 渡 治平  
 池 龜 英雄  
 カイザ ニツボニカ  
 堀 家 一 郎  
 平 井 亨 之 助  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年  
 大上事務所  
 大上高秀  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年

謹賀新年  
 大上事務所  
 大上高秀  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年

謹賀新年

謹賀新年  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年

謹賀新年  
 古川 吳 服店  
 波邊 佐藤 東壽  
 大野 商 店  
 青木 商 店  
 ベンソン 弘中 増太郎  
 羽川 商 店  
 森園 製靴 店  
 細井 理髮 館  
 製菓所 野村 時之助  
 寫真機 加藤 寫真館

謹賀新年  
 大上事務所  
 大上高秀  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年

謹賀新年  
 大上事務所  
 大上高秀  
 ノロエステ變更線ラビニヤ聯  
 郵便 二一五番

謹賀新年



CASA AMAZONAS

謹賀新年

建築材料 器具 戸物 家具 什物 各種品物

インペリアルミシンの代理店

カリー・マソリーナス

山下商店

サン・ルイス街七八一七八三

電話二二九九 郵函二七七八

支店 内外雜貨 プレノス・アイレス

謹賀新年

中尾測量事務所

中尾 政 秋

マリリア市カルロス・ゴメス街五二一九

電話 四二二七

正賀

谷本 勝 一

マリリア市サン・ルイス街五六三

郵函 五二六三

正賀

中平 三 夫

マリリア市

謹賀新年

サバタリア福島

佐々木 武 男

マリリア市サン・ルイス街一〇七二

郵函 五

謹賀新年

パウリスタク青年聯盟

マリア市サン・ルイス街一〇七二

支店 支店 支店 支店 支店 支店 支店 支店 支店 支店

謹賀新年

寺田 平 吾

マリリア市

正賀

内外果物各種併々

大年

マリリア市サン・ルイス街一〇一九

電話 四一九一

謹賀新年

パール・ソルベツテリア

西 田

マリリア市サン・ルイス街一〇一〇

電話 五二二三

正賀

太田 元 良

マリリア市

謹賀新年

村田 道 之 助

マリリア市

謹賀新年

オフィシーナ

川 上 太 一

マリリア市ノイベ・ヂ・ジュリョ街六六四

郵函 五二二

謹賀新年

雜貨 專門店

小間物

バザール・日本

神頭喜代治

支店 マリリア市

支店 ノイベ・ヂ・ジュリョ街一〇〇

支店 同サン・ルイス街八五七

支店 同サン・ルイス街二九三

正 賀 HARUICHI OKAMOTO & CIA.

岡 本 春 一 商 會

マ リ リ ア 市

電話 二二五一 番 ・ 郵 函 一四九 番

謹賀新年

マリ、ア市

阿 鷹 商 店

マリリア市

電話 三二四四

郵函 二五九九

謹賀新年

スールアメリカ保險會社代理人

岡野 孝 宣

堀川 正 規

マリリア市サン・カルロス街七四

電話 五二六六

郵函 三二二七

謹賀新年

珈琲、棉花、雜穀仲買

内外雜貨、卸小賣

マツクフアデン棉花會社代理店

沖 商 會

マリリア市

支店 同サン・ルイス街五六一

支店 同サン・ルイス街二一八

正 C. A. I. C. 賀

Companhia de Agricultura, Imigração e Colonização

パウリスタク鐵道會社傍係事業

本部事務所 聖市リベロ・バダロー街三九番一階

農業者諸賢に告ぐ

パウリスタク鐵道姉妹會社カ・イ・ケ土地會社は第六區分讓地の賣出しを開始いたしました。報ひられぬ努力や、償はれぬ消費地帯より脱出して肥沃なる熱地帯 C. A. I. C. の土地を求められよ。分讓中のポストン・キャトリは地權絕對確實、總面積…… 14.645 アルケーレス、内既にゾーナ・ダ・マツタの肥沃地 11.145 アルケーレス賣却済み。

○○○○○○○○ 條 件 ○○○○○○○○

類例なき安價を以て提供、五ヶ年無利子、支拂方法……初年度、全額の二十五% 次年度……七五% 宛五ヶ年賦拂ひ。交通至便、毎日マリリヤ市より午前拾時發アダマンチーナ行乗合バスの便が有ります。此の度賣出しせる第六區分讓地は來る一九四一年三月三十日限り上記の條件として以後は拂込金を値上げ致します。何卒此の機を逸せず是非一度御視察あれ。尙詳細なる御問合せは下記へ。賣却讓渡主任 マリー・オ・F. オリヴェロ

MARIO. F. OLIVEIRO S/C

CONCESSIONARIOS DA

C. A. I. C.

Rua 9 de Julho 1493 MARILIA

フオエスタ方面代理人

原 寬 治

リンス市

南 喜 三 郎

マリリア市

太 郎 良 正

ドアルテナ町

日本人部主任

遠 藤 伊 一

マリリア市ノイベ・ヂ・ジュリョ街一四九三

謹賀新年

乗合自動車經營

秋山兄弟商會

マリリア市

中央メスキッタ

謹賀新年

高級寫眞現像、焼付、引伸

出張撮影

田上寫眞館

田上 富 雄

マリリア市ノイベ・ヂ・ジュリョ街一四一八

(シネ・サンルイス前)

田上 忠 雄

マリリア市ノイベ・ヂ・ジュリョ街一四二〇

(シネ・サンルイス前)

謹賀新年

珈琲、棉花、米栽培及賣買

精製、精米工場及倉庫

日本品輸入、中將湯伯國代理店

瀨 木 商 會

(マキナ・セギ) マリリア市 郵函一四五

電話 二一九五 電話 S.E.G.U.I.







謹賀新年

内外雜貨、食料品  
農産物、棉花仲買

岡本商店

岡本定雄

パワリスカ線バウリス市  
アベニグノノ一五〇三  
電話 四八五

賀正

比嘉

比嘉賀昌

マリリア市  
ノノベテ・ジュエ  
リヨ街一二三九

正賀

パール・フロリダ

パワリスカ線バウリス市  
パワリスカ線バウリス市  
電話 四八五

正賀

カフェー・セントラル

山本重良  
パワリスカ線バウリス市  
電話 四八五

正賀

原田寫眞館

原田寫眞館  
パワリスカ線バウリス市  
電話 四八五

CASA JAPONEZ  
TAKEO TOYOTA  
Osaka Postal, 194 - Tel. 164  
GARCA

謹賀新年

御旅館

内外雜貨、食料品、農産物  
小間物一切、書籍、文具、レコード  
電話 一五四 郵局一四四

CASA YASHIMA

謹賀新年

八洲商店

内外雜貨、食料品、農産物  
農産物、食料品、農具  
電話 七三三 電話 六一

謹賀新年

美和裁縫女學校

校長 三羽 三羽  
顧問 三羽 三羽  
電話 一六二

謹賀新年

原田商店

ボンベニア市

賀正

別府梅治郎

野又收太郎  
マリリア市サン・  
ルイス街七七八  
電話 一八八

賀正

日の丸  
呉服店

正賀

川野幹吾

マリリア市

正賀

森留次郎

マリリア市

正賀

豊臣發揚

マリリア市

正賀

齋木三郎

マリリア市

正賀

石部品吉

マリリア市

謹賀新年

堀川豊一  
中本重雄

マリリア市バロン・デ・バナール街一九三

謹賀新年

星名三郎

マリリア市

謹賀新年

山本商店

マリリア市サン・ルイス街一〇四六  
電話 一八八

謹賀新年

島袋商店

本店 マリリア市サン・ルイス街八八  
支店 同バロン・デ・バナール街一五五

謹賀新年

明珍商店

シヤボチカバール市  
電話 二二三

明珍商店

モンテアルト市  
電話 五番

謹賀新年

バザール・キング

マリリア市サン・ルイス街一〇四五  
私書函 E

謹賀新年

本田寫眞館

マリリア市アルゴンテ・モラエス街  
電話 E

謹賀新年

加藤工業所

マリリア市アルゴンテ街一五六  
自宅 ジュゼー・アンセツタ街四八四

謹賀新年

三宅兄弟商店

マリリア市サン・ルイス街二〇  
電話 一〇四八

賀正

森田

ガルス市乗合自動車  
停留所前

賀正

久保田  
果物店

マリリア市サン・  
ルイス街一〇二八

謹賀新年

吉田寫眞館

マリリア市サン・ルイス街一〇六六  
電話 E

謹賀新年

上田留五郎

マリリア市

謹賀新年

パール酒井

マリリア市サン・ルイス街一〇九九  
電話 四一九

謹賀新年

尾川工場

マリリア市サン・カロス街六八一  
ボンフィン街角 郵局 三三三

謹賀新年

ホソベイア市

産業組合

太田商店  
菅山商店  
井上兄弟商店  
小田商店  
濱崎・岡田商店  
花田商店  
清水家具店  
森邊商店  
田邊商店  
福野・横井商店  
河野・岡商店  
藤岡商店  
ハトヤ文具店  
宮崎商店  
富田商店  
本山商店  
岡田商店  
喜一商店

謹賀新年

島袋完忠兄弟商會

マリリア市ノベ・デ・ジュリオ街一一一  
電話 二七五 郵局 E

謹賀新年

島袋完次郎

マリリア市ノベ・デ・ジュリオ街一一三九  
電話 五七七

謹賀新年

平田家具製造所

家具製造並に建築請負  
マリリア市サン・ルイス街二二六四

謹賀新年

山泉田利正

マリリア市サン・ルイス街一〇九六  
青年會館下











# モチアナ線版

謹賀新年  
香川縣木田郡  
宮武熊吉  
モチアナ線版  
モチアナ線版  
モチアナ線版

## 謹賀新年

親愛會  
ゼネラル・オゾリオ街二四  
(イロハ順)

野菜・果物商  
井上商店  
メルカード内パンカ五番七番八番

内外雜貨商  
西宮商店  
ジョゼー・ボンファツシオ街四五

朝日洗濯所  
川崎敬司  
パライソ街五七 電話八七四

内外雜貨商  
吉海商店  
ジョゼー・ボンファツシオ街四七

運送業  
内田富雄  
黎明塾

野菜・果物商  
久保田増美  
メルカード内三三

トマテ及果物仲買商  
アナスタシオ福澤  
メルカード内パンカ五番 七番 八番

アウローラ洋服店  
佐藤捷國  
ジョゼー・ボンファツシオ街四九

アルマゼン・マグリ棉花部  
三河惠二  
O.A.I.C.土地植民社代理人

パウリスタ鐵道會社代理人  
三上武雄  
土地植民會社代理人

ホテル・サンパウロ  
南澤利治  
ゼネラル・オゾリオ街二四 電話三九〇番

南澤利治

### 謹賀新年

精米業、農具・農藥品一切  
A.O.、ワカモト取次  
棉花・農産物仲買

中野精米所  
中野農場  
中野益男  
從業員一同

從業員一同

グワラー市 郵函二五番

### 賀正

アリマ寫眞館

館主有馬清光  
技師有馬清一郎  
撮影有馬芳子  
助手米元萬里男

イガラバー市 電話百拾參番  
郵函七拾番

### 賀正

田中精米所  
田中農場

田中 田中 田中  
田中 田中 田中

### 謹賀新年

日本食料品  
蓄音機レコード

清水商店

清水規 清水篤

イワバラ市 電話八二番 郵函六番

### 賀正

柏木良二

クラヴィンニョス町

謹賀新年

八ツ田一藤

イガラバー市

### 賀正

福田幸太郎

イワバラ市 電話一〇番

謹賀新年

加藤商店

クラヴィンニョス町 電話一〇番

### 謹賀新年

## 汎モジアナ邦人陸上競技聯盟

イワバラ市 郵函六番

イガラバー青年會

イガラバー市 郵函七十番

イツペラアバ青年會

イツペラアバ市 郵函六番

朝日青年會

イツペラアバ市 郵函七番

日之出青年會

イツペラアバ市 郵函七番

ミゲロポリス中央青年會

イツペラアバ市 郵函十五番

グワラー中央青年會

グワラー市 郵函二十一番

クラヴィンニョス聯合青年會

ダス・フロレス青年會  
アグア・ブランカ青年會  
グラミニンニヤ青年會  
サンタ・テレジンニヤ青年會

謹賀新年  
旅館・精米業  
村泉 中八 泉郎

フランカ市

謹賀新年

フランカ日本人會

謹賀新年

矢野鐵工所

クラヴィンニョス町

謹賀新年

西尾寫眞館

クラヴィンニョス町(公園前)

謹賀新年

クラヴィンニョス日本人會

クラヴィンニョス町

謹賀新年

野口藏

ベドロ・グレイロ市

謹賀新年

落合久雄

ウエラアバ市  
ベルナルド・ギマランニョ街二一

謹賀新年

河野喜悅

イワバラ市  
アベニダ通り



**Casa Kaway** 謹賀新年  
de OUTA & KAWANO  
贈答用品・雑貨・食料品  
何でも揃ふ皆様の百貨店



カーザ・ナカヤ  
太田龍二・河野忠重  
R. Conde do Pinhal, 170 - C. P. 2995  
Tel. 2-2207 - S. Paulo

謹賀新年  
バステイス店  
中村 薫  
聖市コンヂ・ヂ・サルセーグス街三二八  
電話二・九八五八

謹賀新年  
池田重二  
「在伯羅里島縣人権長官」等  
Rua Iguaçu, 2281  
Pinheiros - São Paulo

謹賀新年  
ANGLO-BRASILEIRA  
MAPPIN STORES  
平素の御愛顧を謝すと  
共に本年も相變らず御  
引立の程願ひ上げます  
カーザ・アングロ・ブラジレイラ  
舊マツピン・ストアーズ

謹賀新年  
柳青  
粹をこらした  
日本  
座敷で  
Rua Tabatinguera, - São Paulo

謹賀新年  
青木事務所  
土地 商部  
事務 部  
Rua Livro 41 - Tel. 2-4888 - S. Paulo

謹賀新年  
日本キネマ興業社  
新設 岡 春 潮  
技師 前 田 巖  
聖市ガルボン・シニョ街四三二  
郵函二一七六

謹賀新年  
料亭 富美の家  
(女給さん募集)  
聖市タバチンゲラ街七二  
電話二・一七六一

謹賀新年  
林岩松  
自動車買置業  
新古交換修繕工場  
聖市ビニョス街  
ミゲール・ヂ・イサ・街二八  
(ビニョス街カド傍)

謹賀新年  
御旅館 ニッポン  
西川 智 柄  
聖市タバチンゲラ街六一番  
電話二・九二四七番  
新式OVERリッコンゼフネル  
アットジョーンメンデス  
阿國手帳、内外帳簿、大阪商船切符取次、諸願書一  
切、其の他製法取次取次、諸願書一  
主任會計簿記士 西川 修 三

謹賀新年  
南米棉花會社  
聖市  
島 清二郎  
Algodoeira do Sul Ltda  
Rua Dr. Falcão Filho, 56  
Edifício Conde Matrazzo - 12.º and.  
Caixa Postal, "e" (Minúsculo)

謹賀新年

直輸出入商 西谷商會

營業種目  
ハリバ、エビオス、サロメチール、其の他有名日本賣薬品  
日本食料品、罐詰類各種、高壓碍子、對酸磁器、化學磁器  
濾過器、自動車用點火栓、毛糸、生糸、撚糸、織物、農藥  
品、農具、化學藥品、染料、塗料、陶磁器、玩具、鉛類、  
セロファン紙、電球、金物類、其の他各種雜貨

東京 田邊元三郎商店  
横濱 株式會社野崎商店  
名古屋 日本碍子株式會社  
大阪 株式會社丸紅商店  
神戸 大信貿易株式會社

伯國 總代理店  
本店 聖市サン・ヘドロ街二〇八  
Caixa Postal, 1134 - Rio de Janeiro  
本 店 聖市サン・ヘドロ街二〇八  
Caixa Postal, 1134 - Rio de Janeiro  
具卸工場 リオ市ヴィスコンデ  
サン・ヴィセンテ街八三三八五  
Rua V. de São Vicente, 83-85 - Rio  
支店 サン・パウロ市カルモ街四〇〇一四一四  
Caixa Postal, 418 - São Paulo

謹賀新年  
榎葉隆昶  
高野山火師教會南米教區伯羅支那  
聖市コンセレイロ・ナライバ街八一三  
電話三・八三八〇

謹賀新年  
チンツラリア・パボン  
職人 大平 三郎 夫  
眞和 三郎 夫  
白川 新三郎 夫  
山田 新三郎 夫  
聖市サン・ジョアン・ヂ・パチス街二〇番  
(カンブリン街)

謹賀新年  
泉川石材店  
聖市ビニョス街バドレ・カルバリー街交



謹賀新年

直輸出入商  
株式會社 小西商店 聖市支店

▼本 社  
大阪市中區中之島二丁目五六  
東京、神戸、京城、大連、奉天、ハルビ  
ン、天津、上海、孟買、サンパウロ

▼支店所在地

▼貝ボタン工場  
リオ・ヂ・ヂャネイロ市エストラーダ  
ヴィセンテ・カルパリオ 一五三五  
電話三〇・三九四四番

▼リオ・ヂ・ヂャネイロ出張所  
リオ・ヂ・ヂャネイロ市サンベドロ街一三三  
電話四三・一二九四番

聖市セナドル・フェイジョ街一七三・一七七  
電話三・一六六七 同三・五六一五















# Suplemento Economico

## O commercio japonnez de algodão de 1939-40

O anno de 1939 marcou uma época memoravel na industria algodoeira do Japão, porque foi nesse anno que as instituições que regulam as exportações do "bloco do yen" e o sistema de exportação coordenada lograram se pôr em condições de funcionar com certa ordem e applicação pratica.

E' certo que havia fricção em alguns círculos, o que era devido a novidade das condições e a falta de interesse da parte dos interessados em ajustar-se á nova ordem de cousas. O inicio da nova guerra Européa e a alta occidental no preço das mercadorias no mundo, serviu de antidoto oportuno e mitigador da situação.

A alta no custo dos productos de branquear e das materias chemicas, a falta de trabalho, etc., têm tido, sem embargo, um effeito desfavoravel a despeito dos factores estimulantes anteriores.

As autoridades principaes da industria opinavam que seria satisfactorio se as exportações de tecidos de algodão para os paizes não compreendidos no bloco do yen chegassem a 2.000.000.000 de jardas quadradas por anno. Sem duvida, as exportações effectuadas chegaram a mais de 2.400.000.000 de yens, que, comparado com 1.876.000.000 de jardas quadradas com um valor de 324.000.000 de yens do anno anterior, indica um augmento de 500.000.000 de jardas quadradas em volume e de 58.000.000 de yens em valor. Incidentalmente estas cifras são eguaes ás alcançadas em 1935. As exportações para o bloco do yen foram, por quantidade, de 45.000.000 de jardas quadradas, com valor de 20.000.000 de yens.

Os principaes mercados estrangeiros para tecidos de algodão foram: India Britannica, Indias Neerlandezas e paizes da Asia, Africa e America do Sul. Em relação á America do Norte houve um maior augmento com aproximadamente cinco vezes o total do anno anterior. Na America Central foi obtido um incremento de 80 %.

A exportação de fios de algodão aos paizes fóra do bloco do yen foi notavel, tambem tendo alcançado a quantidade de 54.900.000 "kin" (um "kin" equivale a 0,6 kgm.), pela somma de 60.400.000 yens aproximadamente, ou seja o dobro das cifras do anno anterior. Este incremento nas exportações de fios de algodão se deve provavelmente ao facto das exportações de tecidos de algodão terem alcançado o seu limite.

Os outros artigos de algodão, que não os fios tecidos, alcançaram a somma de 14.200.000 de yens.

O augmento foi especialmente notavel nas importações do

bloco do yen.

Os tres productos anteriores — fios, tecidos, e outros productos de algodão —, alcançaram um total de 617.000.000 de yens, assignalando um augmento de 51.000.000 de yens sobre o anno anterior.

O total das importações de algodão em rama no anno passado alcançaram a somma de 10.094.000 fardos no valor de 462.000.000 de yens, que comparado com o anno anterior, assignala um augmento de 716.000 fardos e de 25.000.000 de yens. Cerca de 10 % das importações foram da China.

O algodão em rama importado com o proposito exclusivo de manufacturar artigos para exportar pelo sistema da coordenação e para o consumo interno, alcançou as sommas approximadas de 350.000.000 de yens e 65.000.000, respectivamente.

Examinando a lista de paizes de origem do algodão em rama, nota-se que as importações do Brasil tem um augmento em contraste com a baixa havida em relação á India, de onde se importaram 1.200.000 de fardos, ou seja, 300.000 menos que o limite ou quota especificada no convenio firmado entre a India e o Japão.

As importações de algodão em rama para o consumo interno sommarão 2.200.000 fardos, dos quaes 800.000 provieram da China, 80.000 da Koréa e os 1.300.000 restantes dos paizes não compreendidos no bloco.

Fazendo um exame das exportações de tecidos de algodão e das importações de algodão em rama, do ponto de vista da balança internacional do commercio, nota-se um total de exportações de 455.000.000 de yens e um excesso de 128.000.000 si se excluem os paizes do bloco do yen. Sem embargo, como as importações por 145.000.000 de yens dos paizes fóra do bloco incluem o algodão para o consumo interno, — que sommará cerca de 65.000.000 de yens —, pôde-se calcular o algodão importado sob o sytema de coordenação em 350.200.000 yens, resultando em 193.020.000 yens de excesso de exportações na balança internacional do commercio do Japão com os paizes fóra do bloco.

As exportações de tecidos no primeiro trimestre deste anno aos paizes fóra do bloco, alcançaram a somma de 497.157.000 jardas quadradas, no valor de 101.103.000 yens.

Em comparação com as cifras do anno anterior, em egual periodo, estas assignalam uma baixa de 5,3 % em volume e um augmento de 23,3 % em valor.

A tabella de exportações, classificadas segundo classes e anotadas em jardas quadradas e yens, é como segue:

	Quantidade	Valor
Sem branquear . . . . .	163.488.730	26.068.548
Branqueada . . . . .	116.418.424	21.530.812
Estampada . . . . .	100.268.197	23.743.708
Em peça . . . . .	70.091.580	18.660.072
Em fio . . . . .	45.890.182	11.010.824
<b>TOTAL . . . . .</b>	<b>497.157.122</b>	<b>101.013.964</b>

**A POSIÇÃO DO SAL**

Foi promulgado, em julho ultimo, um decreto-lei que autoriza o Ministro da Fazenda a assignar, pelo prazo de 3 annos, contracto no valor de 15.000 contos de réis, entre o Governo Federal e o Banco do Brasil, para financiamento, amparo e defesa da produção e da industria do sal.

A garantia é constituída pela taxa de 10\$000 por tonelada de sal exportado, taxa que foi instituída pelo decreto-lei n. 2.300, de 10 de Junho de 1940, que criou o Instituto Nacional do Sal.

A exportação brasileira de sal, exclusivamente para portos nacionaes, foi, em 1939, de 370.000 toneladas, no valor de 24.500 contos.

No quinquennio, ella apresentou o seguinte movimento:

Ano	Toneladas
1935 . . . . .	230.000
1936 . . . . .	340.000
1937 . . . . .	380.000
1938 . . . . .	340.000
1939 . . . . .	370.000

Tomando-se por base o ultimo anno, o rendimento da taxa de 10\$000 por tonelada deverá ser de 3.700 contos de réis.

O producto dessa arrecadação ficará em poder do Banco do Brasil, afim de ser applicado pelo Instituto do Sal nos seguintes fins:

- garantia e ressarcimento de prejuizos nas operações de warrantagem;
- garantia de operações de retrovenda;
- auxilio a cooperativas e syndicatos, que se fundam com o fim principal de melhorar o producto;
- construção de armazens para depositos, nos centros de produção;
- custeio de instalação e funcionamento do Instituto;
- fomento da industria de aproveitamento do sal e dos sub-productos deste.

O sal é mais um producto a ser orientado pela economia dirigida, ao lado do café, do assucar, do matte e do pinho. A intervenção dos poderes publicos se faz necessaria em virtude da super-produção do artigo.

Tem sido a seguinte a produção brasileira nos ultimos annos:

Ano	Tonel.	Contos de réis
1935 . . . . .	277.000	4.700
1936 . . . . .	494.000	10.800
1937 . . . . .	770.000	17.000
1938 . . . . .	800.000	52.000

Principaes Estados produtores em 1938:

Estado	Toneladas
Rio Grande do Norte	550.000
Rio de Janeiro	118.000
Ceará	42.000
Sergipe	38.000
Maranhão	26.000

Pelos dados acima, vê-se que só a safra do Estado do Rio Grande do Norte é superior ao consumo do Brasil, calculado em 400.000 toneladas approximadamente.

Note-se que a curva da produção tem sido ascendente, ao passo que a do consumo tem sido relativamente estavel.

## Corographia e Estatistica

O decreto-lei n. 2.141, que regulamenta a execução do Recenseamento Geral de 1940, attribuiu aos delegados regionaes, sectionaes e municipaes do respectivo Serviço, além da execução dos trabalhos censitarios, uma incumbencia da maior importancia.

Cada um delles deverá juntar, a relatorio confidencial e minucioso das diferentes fases dos serviços censitarios a seu cargo e das condições em que hajam os mesmos decorrido, um estudo documentado, de feição estatistico-corographica, concernente ao Estado, á Secção Censitaria (grupo de municipios) ou ao municipio, conforme o caso.

O alcance da medida é evidente. Ninguem ignora quanto é favelado o estudo da corographia do Brasil, bastando mencionar que alguns Estados são obrigados a adoptar, nas suas escolas, compendios de geographia e corographia e corographia regional eivados de erros.

Dentro de alguns annos o Brasil será um paiz provido de factas informações sobre a sua feição physica, com minucias e precisão jamais obtidas até hoje:

Terá a sua carta ao millionesimo, terá os resultados de um recenseamento de extenso raio de penetração nos dominios da vida economica e social, terá detalhados estudos corographicos de todas as parcelas do territorio nacional, como já possui o mappa de cada um dos nossos 1.574 municipios e como dispõe, em quasi todos elles, de um serviço estatistico permanente, cuja eficiencia será ainda maior depois de concluidos os trabalhos basicos, ora em execução.

As monographias sobre aspectos fundamentaes da vida nacional, ou da vida regional e municipal, conforme o caso, cuja elaboração será confiada a especialistas em cada assumpto, constituirão estudos historicos e technicos de palpitante actualidade.

Essas monographias, que deverão ser publicadas em volumes independentes, á guisa de introdução aos resultados numericos dos diversos censos, destinam-se a formar um documentario precioso, particularmente util, a um tempo, ao administrador como ao sociologo, ao sanitaria como ao pedagogo, ao homem de negocios como ao jornalista.

## O PROGRESSO DO COOPERATIVISMO

O Serviço de Economia Rural do Ministerio da Agricultura acaba de divulgar dados muito expressivos sobre o desenvolvimento do cooperativismo no Brasil.

Esses dados referem-se ao exercicio de 1939. O Serviço de Economia Rural adverte, porém, que as estatísticas não são completas. Ainda ha, infelizmente, em alguns pontos do paiz instituições cooperativas que — por preguiça ou por ignorancia — não respondem, com a devida regularidade, os questionarios do Serviço.

O paiz conta actualmente, com 1.016 instituições cooperativas registradas. Os associados attingem a somma de 131.169, com o capital minimo de cerca de 60.000 contos. O capital subscrito é de pouco mais de 102.000 contos, e o realizado de 41.000 contos.

Das 999 cooperativas de primeiro grau, 256 são de consumo, 251 de credito, 465 de produção e 25 de objectivos diversos. As cooperativas de consumo, com um total de 45.570 associados têm um capital subscrito de cerca de 9.000 contos e realizado de mais de 3 mil contos. Delas, 102 são cooperativas escolares e 9 de compras em commun.

Das cooperativas de credito, 167 são agricolas e 84 urbanas. Seus associados orçam por 34 mil pessoas, e seu capital realizado attinge a somma de 2 mil contos de réis.

No total das 1.096 cooperati-

## O Brasil na Pecuaria

Offerecendo condições propicias ao desenvolvimento da industria pastoril, possui o Brasil uma população animal superior a 95 milhões de cabeças, occupando logar destacado na criação das principaes especies domesticas. Figura o nosso Paiz em 4.º logar no mundo como criador de bovinos, em 3.º na criação de suínos, em 4.º logar na criação de caprinos, em 2.º logar na criação de asininos e muares, em 4.º logar na criação de ovinos. Os rebanhos formados por estas seis especies principaes constituem um patrimonio animal de valor superior a 7 milhões de contos de réis.

Embora não tenhamos attingido ainda o grau de progresso alcançado em outros paizes, já possuímos grandes rebanhos de qualidade exigida para exportação e a necessaria capacidade de transformal-os, representada por mais de 800 estabelecimentos, entre frigorificos, charqueadas, fabricas de productos suínos, usinas de leite, etc., que permittem a perfeita industrialização dos productos de pecuaria fazendo della uma effectiva fonte de riqueza.

Esse aperfeiçoamento se deve em grande parte á acção do Ministerio da Agricultura, visando o maior rendimento dos rebanhos.

(Do "Observador Economico e Financeiro")

vas existentes no Brasil, incluem-se 17 instituições de 2.º grau, isto é, dez cooperativas centrais e sete federações.

ação dos intellectuaes e dos jornalistas.

Em São Paulo, o sr. Adhemar de Barros confiou a direcção de repartições importantes a escriptores do valor de Cassiano Ricardo, Menotti Del Picchia, Francisco Pati, para só alludirmos a esses. Bello gesto, esse do interventor paulista. São Paulo é tambem um estado que vale por sua enorme tradição cultural.

(D. P. P. do Governo de S. Paulo).

## Luta Incessante

Os responsaveis directos pela execução do recenseamento no interior do paiz desenvolvem neste momento o maximo de actividade afim de que os trabalhos de collecta do censo demographico fiquem concluidos no ultimo dia deste anno.

As informações procedentes da maioria dos Estados fazem crer que na quasi totalidade dos sectores censitarios o esforço será coroado de éxito.

Só em algumas determinadas zonas certamente a operação não poderá ser dada por encerrada dentro daquelle prazo. Ora o excesso de chuvas, ora difficuldades outras, imprevisíveis no plano dos trabalhos, em regra obstaculos peculiares ao meio, impediram que tudo corresse conforme fóra planejado.

Na região amazonica houve lugares que até agora se tornaram inacessíveis aos recenseadores. A luta desses servidores do Brasil contra toda sorte de difficuldades é intensamente dramatica, tendo um delles até naufragado num igarapé enca-

choeirado, salvando apenas a propria vida e a pasta dos papeis censitarios.

Em Minas Geraes ainda ha pouco não fóra possível obter pessoal para recensear determinada zona, em virtude da violencia com que ali grassava a malaria.

A decisão e energia com que os trabalhos são atacados e, sobretudo, a firme intenção de perseverar, de não transigrir em prejuizo da absoluta idoneidade dos resultados da operação, não arrefecem ante os óbices encontrados. Levam-nos, sim, de vencida, ora mais ora menos rapidamente, sempre, porém, de modo a não deixar margem a qualquer descredito.

Os censos estão sendo feitos escrupulosamente em todo o Brasil, com igual segurança, referindo-se sempre todas as informações, collectadas ainda nesta prologação inevitavel do periodo prefixado, á situação do informante e de sua familia no dia 1.º de setembro, a data inflexivel do Censo.

## Palacio do Thesouro

Nunca é demais encarregar o significado de iniciativas como a que teve o sr. Adhemar de Barros autorizando a construção do magestoso edificio que, na Esplanada do Carmo, abrigará todas as dependencias da Secretaria da Fazenda do Estado.

Essa concentração de repartições fazendarias representa economia de tempo e de dinheiro, dois factores indispensaveis á boa marcha dos orgãos administrativos. E' que actualmente as varias secções da Secretaria da Fazenda acham-se dispersas em varios prédios, distantes, ás vezes muito distantes uns dos outros. Essa anomalia não atinge apenas ao contribuinte, forçado, muitas vezes, a dispendir um tempo apreciavel para saldar seus compromissos com o erario publico. Attinge tambem o trabalho do funcionario, obrigado a se desdobrar em esforços quando sua presença é reclamada em dependencia da Secretaria que fique longe do local onde exerce suas funções.

Há ainda um aspecto da questão que deve ser posto em relevo; é o caso dos alugueis que o governo paga, hoje, aos proprietarios dos diversos predios onde funcionam repartições da Secretaria da Fazenda. Esses alugueis attingem a somma de mil e cem contos, como declarou o sr. Mario Rolim Telles. Alguns desses predios, aliaz, deixam muito a desejar em materia de conforto e de adaptação ás exigencias das repartições a cujos misteres servem.

O futuro edificio da Secretaria da Fazenda solucionarã — e solucionarã bem — todas essas questões, com a vantagem de ser um prédio a ser construido segundo as mais rigorosas exigencias da architectura moderna. E o Estado, vendendo apenas tres proprios, ora occupados por dependencias da Secretaria da Fazenda, construirã, com o producto dessa venda, o magestoso edificio da Esplanada do Carmo, o que vale por uma operação financeira de optimos resultados para as finanças publicas.

## UM PRECURSOR

Há poucos mezes, morria no Rio um grande brasileiro. Chamava-se Trajano Saboya Viriato de Medeiros. Foi uma morte discreta, a delles. Só alguns jornaes se lembraram de que o Brasil, com a morte do engenheiro Trajano de Medeiros, perdera um dos seus filhos que mais lucidamente trabalharam pela instalação da alta siderurgia entre nós.

Em companhia de Carlos de Costa Wigg, outro batalhador que já havia tentado fundar em Minas a grande siderurgia lançando-se á construção dos altos fornos, Trajano de Medeiros propoz ao governo a fundação de uma usina siderurgica em Volta Redonda, com capacidade de produção de 150.000 toneladas de ferro gusa ao, trilhos, vigas, cantoneiras, barras, vergalhões e chapas. As concessões pleiteadas pelo eminente brasileiro eram justas, sobretudo a que estipulava a obrigação do governo de adquirir na usina a maior parte dos productos industriaes fabricados por ella. Depois de espaço de tempo determinado, a usina reverteria para o governo.

Tudo isso se passou em 1911. O então, presidente da Republica,

marchal Hermes da Fonseca, concedeu o que o engenheiro patricio solicitava. Este tratou immediatamente de conseguir o financiamento inicial. Ahi, então, surgiram as manobras dos "trusts" estrangeiros interessados no anniquilamento do projecto Trajano de Medeiros. O Congresso revogou os favores concedidos pelo presidente Hermes. Os banqueiros, apesar das solidas garantias apresentadas pelo engenheiro Trajano, negaram-lhe qualquer especie de capital. Era a comprehensivel sabotagem de quantos — estrangeiros e brasileiros sem patriotismo — conluíram-se para impedir, a qualquer preço, a instalação da siderurgia no Brasil. E, finalmente, a sabotagem venceu.

Agora que vão trabalhar os altos fornos de Volta Redonda — local apontado como ideal, em 1911, pelo engenheiro Trajano de Medeiros — é justo que se rememore a figura enorme desse precursor. A elle, como, de resto, a outros, deve o paiz a origem dos esforços que culminaram, por iniciativa corajosa do presidente Vargas, na instalação da grande siderurgia brasileira.

## A intelligencia existe

Houve um banquete em Porto Alegre. Mas um banquete que fugiu a modelos classicos do genero. Foi uma verdadeira festa da intelligencia. Trezentos escriptores e jornalistas gaúchos reuniram-se para ouvir as palavras de sympathia e estimulo que lhes dirigiu, em nome do governo do Rio Grande, o prefeito de Porto Alegre, sr. Loureiro da Silva. O pretexto foi a entrega dos premios do concurso que a municipalidade de Porto Alegre instituiu para "a melhor evocação sentimental" da capital gaúcha, dois dos quaes ganhos

pelo contista Darcy Azambuja e pelo romancista De Souza Junior.

Em seu discurso, o sr. Loureiro da Silva accentuou que o governo do Rio Grande tem a mais alta conta o papel desempenhado pelos homens de intelligencia e sensibilidade de sua terra. Disse que esse mesmo governo não se limitava a zelar pelo progresso do Rio Grande apenas no plano das realizações mate-

riales. Um dos seus mais nobres deveres era o de estimular, por todos os meios, a renovação da cultura gaúcha — o que, de resto, vinha fazendo não só amparando as actividades dos homens de espirito como entregando a varios delles a direcção de importantes postos da administração publica.

Nunca é demais louvar palavras como as que acaba de proferir em Porto Alegre um ho-

mem com as responsabilidades do sr. Loureiro da Silva, que, no caso, falou como interprete do pensamento do interventor Cordeiro de Faria. A intelligencia sempre foi tão mal comprehendida no Brasil que attitudes como essa valem como promessa de dias melhores. Nem é, aliaz, outro o pensamento do presidente Getulio Vargas que foi o primeiro chefe da Nação a reconhecer a nobre função social da

*[Handwritten signature and notes]*





# Perquirindo o Passado Symbolismo nipponico

Columna dos Nisei

## BACHAREIS

MATCHAN

(Trecho de um ensaio)

NYOZEKAN HASEGAWA

Nos seculos VII ou VIII o Japão não possuía ainda alfabeto nacional. Por essa razão os escritores nipponicos de então usavam os caracteres chineses, dando-lhes valor fonético, nas epistolas particulares e documentos publicos. No Occidente, em todos os paizes se empregavam o latim, pois os idiomas nacionaes desenvolveram-se mui lentamente. O povo francez que foi o primeiro a ter seu idioma proprio, só o teve lá pelos seculos VIII ou IX. No Nippon os "KUNISUBITO" (um dos predecessores do actual povo japonéz), fizeram poesias em "YAMATOKO-TOKA". Este facto appareceu narrado num escripto do reinado do Imperador Ojin (seculo III da Era Christan). Por essa época já o idioma nacional estava completamente diffundido em todo o archipelago. No entanto o francez se formou somente meia duzia de seculos depois, e como consequencia da evolução de um dialecto do latim. O celta e o teutonico, pre-existentz, quasi não deixaram vestigios. Em forma escripta só se conservou alguns documentos de após seculos XI.

No nosso paiz, no seculo XI, a litteratura japoneza estava já em plena florescencia e ainda hoje é lida, como modelo da litteratura classica. No Japão a litteratura classica teve assim uma renascença. No occidente, porém, houve uma ruptura dos laços que ligam a civilização antiga á que surgim na Edade Media. Na Europa não se encontra, conservada, nenhuma litteratura, do periodo correspondente ao do nosso "Kojiki" ou "Manyoshū" em linguas nacionaes originaes. A antiga mythologia germanica, foi registrada na linguagem do seculo XII, não sendo conservada tambem no original. Aconteceu o mesmo com o Nibelungen Lied e Tanhauser. Esses livros ultrapassam, na sua riqueza intrinseca e grandiosidade da imaginação a litteratura classica do Japão, mas não se conservaram na forma primitiva, como o "Kojiki".

Na propria Italia, após a queda do Imperio Romano do Occidente o latim puro foi abolido. O latim puro, naquella paiz, foi recuperado, depois que o havia sido na França. O italiano moderno, foi empregado em litteratura no começo do seculo XIV, isto é, no tempo de Petrarca e Dante. No Japão, tres seculos antes, uma litteratura genuinamente nipponica florescia. E era

de qualidade diferente da litteratura antiga da Europa: era mais moderna, e obras de vulto surgiram em numero consideravel. Alguns seculos antes do Renascimento italiano o cultivo do classico havia sido iniciado no Japão. Senkaku e outros mais principiam o estudo do "Manyoshū".

Na Inglaterra, o anglo-saxon se tornou idioma ingles no seculo XII e XIII, tendo a litteratura inglesa apparecido no seculo XIV com Chaucer, como todos sabem. Contudo a aristocracia de Albion não sabendo o ingles, usava o francez. Nas escolas elementares ensinavam-se o francez quando não o latim. O primeiro livro escripto em ingles era a narrativa de viagem de Mandeville em 1356. Nesse anno, no nosso paiz, foi publicado o "Tokuhashū", collectanea de dois mil e tantos RENKA e HAIKAI. Já demonstrava uma evolução accentuadamente modernista do idioma e litteratura nacionaes.

Os paizes europeus conseguiram possuir seus idiomas proprios pelos seculos XIV ou XV, quando existiam sete linguas na Europa. Tres dellas pertenciam á península iberica, sendo, as outras as linguas franceza, italiana, alemã e inglesa. O idioma allemão tornou-se apropriado ás expressões philosophicas e o sermão pregado por Taurer, o primeiro que escreveu prosa em allemão, é considerado o precursor da linguagem philosophica allemã. Entretanto, mesmo na Alemanha, até a época de Kant escrevia-se livros de philosophia e litteratura, na maioria, em francez ou latim. Desta maneira, mesmo nos tempos de idiomas nacionaes, havia o costume de escrever cartas ou obras litterarias em latim ou francez. No Nippon, tambem, houve um longo periodo, antes de Meiji, em que as obras em KANBUN (chinez), predominavam.

.....

O numero de analfabetos na Europa era, naquelles tempos, incomparavelmente superior ao do Japão. Por isso não se usava, até o seculo XIV, assignaturas nos escriptos. Na propria França não se usava assignaturas até meados do seculo XV.

A posição da mulher nas letras nacionaes, na Europa, então, era

absolutamente destituida de significação. Acontecia o inverso com a mulher japoneza. No nosso paiz Murasaki Shikibu, Seishonagon e outras litteratas dominaram o palco da litteratura genuinamente nipponica. Alguns seculos depois uma dama inglesa (lady John Pennum), escreveu uma carta em ingles ao seu esposo. Essa carta, é considerada a primeira escripta por mulher e seu original ainda existe. A sua composição está feita em ingles elementarissimo. Tem-se, por isso, como authentic.

No Nippon tanto a litteratura como o theatro e a musica, da antiguidade e da idade media, conservaram-se, na forma primitiva e são hoje representados e executados talqualmente naquelles tempos. Tal não acontece na Europa, pois as peças classicas hoje levadas em scena, juntamente com as peças hodiernas, são de épocas posteriores á Renascença. Os "mysterios" representados nos seculos XIV e XV, eram mais ou menos, de tendencias semelhantes ao nosso NO. Mas hoje não mais se representam na Europa. Segundo a Historia de Theatro de Mantius, annos atrás foi representado uma dessas peças em Berlim, sem exito. Parece-me que essa peça tambem não conservava a forma primitiva da idade media. O "Ober-Ammer an." de Baiern, ainda hoje levado á scena de dez em dez annos, não conserva sua forma primitiva. E' uma imitação das formas medievas feitas modernamente.

A civilização do povo japonéz conservada ininterruptamente, desde a antiguidade, do mesmo modo que na Europa de após o renascimento, permitiu a conservação dos monumentos artisticos até os dias de hoje. Na Europa, porém, houve transformações estruturales violentas nas tres etapas de sua evolução: edade antiga, media e moderna. Assim, a civilização antiga não se transmitiu á idade media e a civilização da edade media não foi conservada na edade moderna. O que subsiste hoje é quasi tudo posterior á edade moderna. A antiga civilização chinesa foi superior á europea, mas hoje está desaparecendo, devido aos mesmos motivos que determinaram o desaparecimento das civilizações antigas occidentaes.

.....

Para comprehender o estado actual da Europa é de utilidade saber estas coisas do passado.

João Baptista Dub'eux

Quem vê o Japão através da sua potencialidade naval, através do seu mimetismo occidental, desconhece o verdadeiro NIPPON, representado pelas dezesseis pétalas do Sagrado Crysanthemo Imperial. O Japão é um paiz recortado de rios e lagos, onde os montes se elevam repentinamente ás nossas vistas, onde as plantações concedem os mais variados matizes, criando um panorama de exuberante alegria... E' um immenso jardim, no qual á Natureza soube o homem dar a mão, adaptando sua belleza, melhorando seu esplendor...

Pouco tempo estive nesse paiz maravilhoso, onde os contos de fadas se tornam realidade, onde á Natureza quiz reunir tudo o que um cerebro de artista poderia conceber. Todavia, nestes poucos instantes, contemplei o Japão, como se fóra um filme desenrolado ás minhas vistas insaciaveis, dando-me, então, a idéia do que é esse complexo de belleza e de poesia que constitue o Paiz do Sol Nascente.

Recordar-me-ei perennemente das paizagens nipponicas que, vistas através da janela de um vagão que se encaminhava para Nagoya, pareciam um jogo de fragmentos vitreos de um immensuravel kaleidoscopio. Eram as cerejeiras em flor que esposavam o verdejar dos montes e o cinza das rochas banhadas pelos riachos... Era o céu cyanico primaveril a casar-se ás neves eternas do FUJI-SAN, tendendo por base o esmeraldino dos campos e a branca dos lagos...

Contemplando essa harmoniosa combinação chromatica, o homem comprehende a nostalgia do japonéz emigrado e vislumbra a poesia que se aninha em cada coração japonéz. Contemplando esse rhythmo de cores e de formas, comprehendemos a origem dos jardins: japonezes, esses artisticos recantos artificialmente ajardinados, dentro desse immenso jardim natural.

O jardim japonéz é um conjunto de montículos verdejantes, intervalados de cristalinos regatos e irrigados por pedras habilmente localizadas. Portanto, tres são o elementos que devem predominar em um real jardim japonéz: montículos, riachos e pedras.

Essa tríade elemental cria no ambiente um consorcio entre a poesia e o amor, onde o japonéz pode, nesses montículos — elevar o seu espirito, irmanando-se á Natureza nessas pedras — descaçar a sua mente dos doridos embates da vida, e, nesses regatos — purificar a sua alma das contaminações terrestres... E' no jardim japonéz que o homem se reconhece como particula integrante da Natureza e vislumbra a senda por onde pode alcançar as Divindades.

Baseado na tríade fundamental dos seus jardins, o japonéz criou tres artes que se caracterizam pela ephemeridade e pelas inesperadas

combinações de efeitos de cores. A primeira, denominada BONSEKI, consiste na habilidosa dispersão de pós finissimos sobre uma bandeja de laca preta, formando paizagens que têm a duração de momentos. A segunda arte, chamada KAKEMONO, é a engenhosa distribuição de painéis, ventarolas e leques pelas paredes de uma sala, alterando a sua disposição de accordo com as estações, com as cores das flores do jardim. A derradeira, denominada IKEBANA, é a arte de dispor as flores em contraste com o ambiente, com as flores do jardim, e, com as cores dos trajas do dia. Caracteriza-se pela determinação de tres elementos estheticos que são perfeitamente distinctos no todo das formas delineadas pelo artista: o elemento superior é chamado TEN (céu), identificando-se com os monticulos dos jardins, por symbolizarem as altitudes; a parte central é denominada TSUCHI (terra) e identifica-se ás rochas dos jardins, como representação da Natureza, da lithosphaera, da Terra; e, finalmente, o terceiro factor JIN ou HITO (homem) tem como emblema os riachos, que, nas suas aguas, lembra a irrequieta natureza humana.

Durante a minha estadia no Japão, observei diversas exposições de IKEBANA, dentre as quaes, a mais interessante, foi contemplada na residencia do sr. Nezu, em Tokyo, onde, simultaneamente, assisti á maravilhosa arte do BONSEKI, habilidosa e manipulada pelo professor Tomochiki Isono.

Não são nestas tres artes, somente, que a tríade de elementos primordiales do jardim japonéz se faz representar e exerce a sua influencia.

Na Música, encontramos os tres instrumentos caracteristicos desta arte nipponica: o SHAKUHACHI, especie de clarineta, o SAMISEN, um bandolim de tres cordas, e o KOTO, uma harpa horizontal, lembram pelos seus especificos manejos e modalidades de sons, a altitude dos montes, a dureza das rochas e o ciciar das aguas dos regatos.

Na Pintura, ha as tres modalidades nacionaes: o KAKEMONO que consiste numa tela de seda comprida, pendurada á parede; o MAKIMONO, tela horizontal e finalmente, o GAKU, que se assemelha aos quadros occidentaes.

Na Poesia, salientam-se, igualmente, tres tipos: a NAGAUTA a TANKA e o HAIKAI, concordando as respectivas metrificações com a variada altitude dos montes, das rochas e das aguas.

No HAIKAI, principalmente, ha a synthese dessa tríade elemental de onde se originou a arte nipponica. Os tres versos distribuidos: como os montes, as rochas e as aguas, têm em si o resumo de toda a arte e, symbolizando as aguas lembra o incessante borborinho da existencia humana.

Por isso, quem pôde comprehender um HAIKAI, sem relacionar o com o sussurro das cristalinas aguas de um jardim japonéz? Quem pôde interpretar o murmúrio de um desses riachos, sem inspirar-se e expandir-se sob a forma de um HAIKAI?

"Multiplos lócus  
Contemplam-se nas aguas  
Ao Sol do Japão..."

## O Tratado Cultural Nippo - Brasileiro

Tokyo, Setembro, 24, 1940.

"O Japão e o Brasil desde ha muito que mantinham relações mutuas, cordias e amistosas, nos sectores do commercio, do empreendimento e da imigração. Com o crescente augmento na troca de visitas de estudantes, artistas, jornalistas e outras mais dos dois paizes, houve um crescimento notavel no interesse pela cultura de cada um dos paizes. Com o objectivo de acelerar esta tendencia e aprofundar mais a comprehensão mutua entre as duas nações, é que foi concluido no Rio de Janeiro, aos 23 de Setembro, o Tratado Cultural Nippo-Brasileiro.

"A conclusão deste Tratado é um acontecimento que marca época na historia das relações amistosas entre o Japão e o Brasil. E' na verdade, uma fonte de profunda satisfação o facto do Tratado servir para o estreitamento mais e mais do laço espirital que une o Japão ao Brasil, a grande Republica da America do Sul, — como tambem para a promoção de suas relações amistosas.

"O Tratado deve ser reforçado após a troca de ratificações. O seu conteúdo é semelhante ao do Ac-

cordo Cultural Nippo-Italiano, firmado em Março do anno transacto".

.....

Recebendo com aclamações a conclusão do Tratado Cultural entre o Japão e o Brasil, o Nichi Nichi sustenta que elle não pôde deixar de augmentar as relações amigaveis já existentes entre as duas nações e diz, em parte, como segue:

"Quando a nossa missão economica, chefiada por Hachisaburo Hirao, visitou o Brasil, em 1935, o povo brasileiro manifestou uma entusiasmica bemvinda á citada missão. Essa visita foi exactamente correspondida pela visita de uma Missão Economica Brasileira ao Japão, no anno seguinte. Desde a troca de missões economicas entre os dois paizes, as importações de artigos brasileiros, que até aquelle tempo amontavam, approximadamente, a apenas 6.000.000 de yens por anno, subiram a 30.000.000 ou 40.000.000 de yens, e dentro do anno passado, ellas já haviam se elevado á enorme figura de ..... 100.000.000 de yens! Nestas condições, o Japão agora veio a se tornar um dos maiores freguezes do Brasil".

## O FUJIYAMA

O Fuji, a montanha sagrada do Nippon, celebre no mundo inteiro pela sua belleza extraordinaria, tem uma altura de 3.778 metros, acima do nivel do mar. A sua circunferencia, na base, mede cerca de 100 kilometros. Ao pé dessa montanha existem lagos que reflectem o seu conecimado por neves eternas. No verão, especialmente nos mezes de Julho e Agosto, massas de peregrinos sobem ao Fujiyama, até o seu pico, d'onde se gosa uma esplendida vista. A belleza do scenario é sobretudo insuperavel ao amanhecer. Algo de sobrenatural e divino, que escapa ás expressões humanas, envolve o céo e a terra e os peregrinos, repetem, cheios de uneção, palavras de incontida veneração e admiração pela montanha sagrada.

## Jornaes em lingua estrangeira no Japão

O Japão é o paiz da imprensa. Lá se encontram os jornaes de maior tiragem diaria no mundo. A organização da imprensa do Imperio do Sol Nascente conta com os ultimos recursos da sciencia e technica modernas. Além de jornaes, abundam, em todos os recantos do Imperio, publicações as mais variadas, scientificas, lite-

rarias, esportivas, de cinema, viagens, etc. etc.

Mas, não existem somente publicações em idioma nipponico. Tambem os periodicos em linguas estrangeiras circulam, em numero relativamente grande, para um paiz onde residem poucos estrangeiros. Das publicações em idioma estrangeiro occupam o primeiro

Eu acho que todos sabem mais como pôde haver algum que não saiba eu vou contar. Não é historia, não. É a pura verdade. Neste anno pela Faculdade de Direito formam-se quatro filhos de japonezes. Tres nisei e um isei. Bacharelados de direito. Futuros defensores do direito, guardiões da lei, paladinos da justiça e uma porção de cousa bonita que dizem respeito á vida, á liberdade e ao bolso de uma porção de individuos. Mais quatro megaphones para tonitroarem: protesto, appellarei, habecorpus, dirimento de perturbação do sentido e uma porção de outras cousas, para dizer que um sujeito que roubou uma gallinha não é um ladrão, é um esfomeado, um necessitado, um desgraçado que quiz matar a fome. E é verdade. Dizem os jurados e o dono da gallinha fica sem ella.

São todos individuos celebres. João Sussumu Hirata é o sujeito mais conhecido da colonia. Foi tudo e faz tudo. É o sujeito mais occupado do mundo. É o homem da pasta. Anda com um pedaço de couro, debaixo do braço, numa actividade que ninguém sabe o que é. É gordo, com uma cara redonda e uns olhos brejeiros. Quando algum o encontra, a primeira cousa que diz, é: Vamos tomar um chopp? Mas não é só isso. Tem umas idéas arvezadas (dizem as mulheres). Uma vez lhe perguntaram: Deyem as mulheres estudar? Respondeu: Mulher? Mulher é prá cozinhar. A gente come estudo? Não, então prá que estudar? Encerrou a questão. É, porque elle come. Elle come para viver, e como está vivo, vive para comer. Tudo ao mesmo tempo. Ficou cinco annos na Faculdade. Começou careca e burro e acabou meio careca. C burro ficou no primeiro anno. Nesses cinco annos um dia estudou por descuido. Quasi foi reprovado. Agora é advogado. Dr. João S. Hirata. Mas ha de sei sempre o mesmo Hirata. Aquelle que um dia achou que devia trabalhar pelos nisei e virou presidente da Liga e acabou fazendo uma viagem ao Rio Grande do Sul para mostrar que havia nisei e nisei. Mostrou. João S. Hirata, advogado, sempre será o Hirata.

Maria A. Haga é a primeira nisei que se forma em sciencias juridicas no Brasil, quiza na America do Sul. A unica advogada de São Paulo com os olhos obliquos. Mas não é para ver torto o direito. Não, é porque é filha de japonez e japonez nasce tudo com o olho esticado para os lados. Apesar disso enxergam do mesmo jeito. Ella tem muita labia. É capaz de convenir um pedestre, que atropelou, que elle é que atropelou e que logar, as de lingua inglesa. Citaremos, a título de curiosidade, os nomes dos principaes orgams editados na lingua de Byron.

Diarios: Japan Advertiser e Japan Times (Tokyo); Japan Chronicle (Kobe); Edição inglesa do Osaka Mainichi (Osaka); Nagasaki Press (Nagasaki); Seul Press (Keijō); Mandehurian Daily News (Dairem), etc..

Periodicos: Japan Magazine (trimestral); Tourist (mensal); N. Y. K. Travel Bulletin (mensal); Travel in Japan (trimestral); Contemporary Japan (trimestral); Nippon (trimestral); Japan Trade Monthly (mensal); Orient in Pictures (mensal); etc.

o automovel foi feito para atropelar gente. Ainda bem que ella não tem automovel. Dos quatro é a que tem melhores notas. No primeiro anno, dos quatro burros, ella foi o menos burro. Não sei se mulher pode ser burro, mas na Faculdade pode. Antes ninguém sabia quem ella era. Depois virou vice-presidente da Liga e todo mundo ficou sabendo que era a Maria. Ella é a resposta para o João. Mulher pode fazer mais cousas que cozinhar. Pode estudar direito e cozinhar. Maria é um exemplo. Um exemplo para as niseis que se retrahem e ficam furiosas quando o Hirata diz cousas dellas. Ora, façam o mesmo. Estudem e depois façam um bom almoço e convidem o Hirata. Façam elle comer até estourar. E quando elle estiver morrendo de tanto comer, digam: Gostou papudo! E quando forem accusadas de assassinas chamem a Maria que serão absolvidas.

Kiyoshi Takabatake está na Cooperativa de Cotia e vive mais ou menos no ar. Elle não tem nada com as latatinhas e muito menos com os ovos e os tomates. Isso escapa ás suas cogitações. Sim, porque elle vive pensativo. Anda pela rua com ar de bezerro desmarrado, pensando numa porção de cousa, que ninguém sabe o que é. Elle é isei. Isso quer dizer que elle nasceu no Japão. Isso já é um bom indice. Varar todo o curso de direito, com todas as difficuldades de lingua, não é de somenos. Elle tambem foi da Liga. Foi até presidente. Apesar de tudo é meio incomprehensivel. Dizem que elle gosta de philosophia. Não sei o que é isso mas deve ser qualquer cousa que ninguém entende. Depois disso são capazes de pensar que elle é um sujeito casmurro. Não, não é. Elle ri, fala e faz discursos. É egualzinho aos outros. A unica differença é que elle vive pensando. Agora, onde é que elle arranja tanta cousa para pensar é que não sei. Será que as batatinhas servem para isso? Ou os tomates? Ou os ovos? Só indo na Cooperativa de Cotia.

Teichi Haga não é irmão da Maria. Só o nome é igual. Desde que a Liga é Liga é o seu primeiro orador. Ninguém sabe porque. Quando a gente pergunta: Por que elle é orador? Respondeu: Ué! Porque é o orador. Ora essa é boa! A gente diz: f! Mas fica no mesmo. Elle não pôde pedra na bocca mas sonha ser outro Demosthenes. Enquanto não é, trabalha no Bratoc. Elle não vive no ar mas vive na lua, o que vem a dar na mesma cousa. Tem umas idéas grandiosas. Vamos fazer isso, vamos fazer aquillo. Diz o João: Esse sujeito parece que ainda não entrou no mundo. Elle inventou uma secção juridica na Liga. Quiz inventar um curso de oratoria. Não chegou a inventar. Isso tudo no tempo de estudante. Agora é advogado. Vae começar uma cousa nova. E como está começando é melhor esperar. É o que eu vou fazer. Se os outros não quiserem, perguntem para elle o que vae fazer.

É isso que eu queria contar. Se elles não reclamarem, tudo que eu disse é verdade. Agora se elles reclamarem é que vae ser o diabo. Ou eu sou mentiroso ou elles estão recheados para disfarçar. Como ha de ser?

Nisei:  
"O "Brasil Asahi" é o seu jornal.  
Leia-o e kollabore com elle."